

家上物語

世下信

5



日像
義光地河...

一山名... 滿... 害... 事

此里貝勒...

日... 力量...

維廷...

一筆菊何名計是

系
悪形光女滅之度

K289
MO
3-2



宥之義光ゆゆ

里見満色ゆ書之事

ゆく夫相も後ゆくゆく

ゆゆくゆくゆく名民ゆ

ゆゆくゆくゆくゆく

ゆゆくゆくゆくゆく

ゆくゆくゆくゆくゆく

一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守

一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守
一 備前守 備前守

此の屋後へくきし一なるが
お物しる毒多のさすゆ十人
の民の世にひらく母中入
る羅くびのち中見あひの
主はうらぬ一とちう
るまに申知建をうく
何と申ひるた

時をばのり申る減とのま
と一民のりも光の
ひの世な申あひの
も光のしる
則ち申る一
の世のしる
城のしる

日中成心志也

定之少得為老之

流也

之何夫相也

之

有之南海也

持

之

之

之

之

之

之

之

西 日本書紀... 海の如きは
 一 海の如きは... 七ノ入...
 考之... 光... 何... 湯...
 一 海... 海... 海...
 日... 海... 海...
 侍... 海... 海...
 一 海... 海... 海...

一 海... 海... 海...
 一 海... 海... 海...
 一 海... 海... 海...
 一 海... 海... 海...
 一 海... 海... 海...

二月三日... 楊... 根... 行... 冠... 人... 形... 量... 形... 天... 方... 何... 功... 良... 婦

... 心... 誠... 我... 名... 名... 種... 者... 意... 所... 實... 也

轉延... 書

まごの年へはと生捕へておまにせ
んごのりこまおごごごの南に
きりごのりごのりごのりごのり
ごのりごのりごのりごのりごのり
ごのりごのりごのりごのりごのり
ごのりごのりごのりごのりごのり
ごのりごのりごのりごのりごのり
ごのりごのりごのりごのりごのり

る由法を伝へりてはしりてあせ
しごのりごのりごのりごのりごのり
川とせさかしくお板とせりてあ尾
濁りておのりごのりごのりごのり
しごのりごのりごのりごのりごのり
先ごのりごのりごのりごのりごのり
ごのりごのりごのりごのりごのり
ごのりごのりごのりごのりごのり

しんが城のりては集りては
ほく橋のりては九年のり
はらわのりては先人のり
はらわのりては先人のり
中の人りては西のり
はらわのりては先人のり
海田のりては先人のり

あつては先人のり
はらわのりては先人のり
はらわのりては先人のり
はらわのりては先人のり
はらわのりては先人のり
はらわのりては先人のり
はらわのりては先人のり
はらわのりては先人のり

保之形之邊ありて一りればも老を
何とく一りありて鞋迄海ありと号
一りる。ま思えんや身はなとあ
らど又是もく一りればも老を
何とく一りありて國の仁をさ
何とく一りあり

小節少将老女滅亡

草前保元平年

こたの形より少く南へ北へ
と陽へ左白へりも
あつて一坪とく由りて
ち野少将老女
と一坪とく由りて

一々を待たうぐり或は漁獲ある
野とてこの民は年々少く
侍の母へ振舞ひぬる時
事あるに雲を飛べば
さうはとも夫れは
帰る感とるひ
あひの事誓ひし
申す振ひる

かゝるやうに
の母を返さる
店めり
ごま
り
ゆ
こ

つれ天をきくくゆりく日陽の
物徒らく情り所別物成とく
て女光くくくくくくくくく
情きくく富ひくくくくく
好く名をくくくくくくく
かきくくくくくくくく
のわあわわわわわわわわ

ほくかくく情くくくく
くか割情くくくくくく
曲事くくくくくくくく
法律とくくくくくくく
延の何故くくくくくく
くくくくくくくくく
くくくくくくくくく

りぬと馬家志野ととど先し
しつと世徳をよとるもの
一向にひくふと又興に仕ゆれば
法信今さらぬとてつと信と信家
下信しつぬとあま川へさへ
しつと世徳をよとるもの
つと世徳をよとるもの
つと世徳をよとるもの

いりぬと馬家志野ととど先し
しつと世徳をよとるもの
一向にひくふと又興に仕ゆれば
法信今さらぬとてつと信と信家
下信しつぬとあま川へさへ
しつと世徳をよとるもの
つと世徳をよとるもの
つと世徳をよとるもの

海老の行はるるを智恵の海老の
余はとらるるを智恵の海老の
くまらるるを智恵の海老の
等々海老名中智恵の海老といふ老切
れ古きとらるるを智恵の海老の
こ百次所とらるるを智恵の海老の

れ海老名中智恵の海老といふ老切
れ古きとらるるを智恵の海老の
こ百次所とらるるを智恵の海老の
海老の行はるるを智恵の海老の
余はとらるるを智恵の海老の
くまらるるを智恵の海老の
等々海老名中智恵の海老といふ老切
れ古きとらるるを智恵の海老の
こ百次所とらるるを智恵の海老の

はるけき年切のりたに年切代り
ふれくたきりしひあに中勢に
たしきくはひしけあに年とらせり
あに源外にあもくあもく
たしきくはひしけあに年とらせり
あに源外にあもくあもく
たしきくはひしけあに年とらせり
あに源外にあもくあもく

あに源外にあもくあもく
たしきくはひしけあに年とらせり
あに源外にあもくあもく
たしきくはひしけあに年とらせり
あに源外にあもくあもく
たしきくはひしけあに年とらせり
あに源外にあもくあもく
たしきくはひしけあに年とらせり

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans approximately 10 lines across the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. The text is written in a cursive style and spans approximately 10 lines across the page.

高の事なるをいふは
しるす事なるをいふは
まじき事なるをいふは
しるす事なるをいふは
まじき事なるをいふは
しるす事なるをいふは
まじき事なるをいふは
しるす事なるをいふは
まじき事なるをいふは

しるす事なるをいふは
まじき事なるをいふは
しるす事なるをいふは
まじき事なるをいふは
しるす事なるをいふは
まじき事なるをいふは
しるす事なるをいふは
まじき事なるをいふは
しるす事なるをいふは
まじき事なるをいふは

江年一々尾形女流と名を留し一書
今一々のあむまゝのまゝに
うまゝにうまゝにうまゝに
酒の味持妙なる
石の味持妙なる
形持妙なる

一々尾形女流と名を留し一書
今一々のあむまゝのまゝに
うまゝにうまゝにうまゝに
酒の味持妙なる
石の味持妙なる
形持妙なる

いふ多のりり人塔り人客しお後
戦後の地より移中地なるをさる地
くくくくくくくくくくくくくく
おれおれおれおれおれおれおれ
かー南河くくくくくくくくくく
とととととととととととととと
紙本文と云の先各血判と云く紙

おれおれおれおれおれおれおれ
たーたーたーたーたーたーたー
信々々々々々々々々々々々々々々々
くくくくくくくくくくくくくく
おれおれおれおれおれおれおれ
ろくろくろくろくろくろくろく
くくくくくくくくくくくくくく

身は秋を母りし江文のやうに
膝切らんしり夫の身は誰堪ふ
すれく欲え寄る心は
花やうに河原しり名と後代は
えんこのおのれはしり城の女
と破れしはしりしりしりしり
初なるしりしりしりしりしり

江文のやうに
膝切らんしり
すれく欲え寄る心は
花やうに河原しり
えんこのおのれはしり
と破れしはしり
初なるしり

けりしは事及進つる位しとらあがら

まのむら勝るさ口月とちくく響きく

あしとくくくくあしとくくくくくくく

竹鬼伝付のしんまの一強けりしとくくくく

こくくくくくくくくくくくくくくくく

結圓ゆつとくくけけけとくくくくく

むあま守たてぬき響くくくくくく

さ水吐きくくくくくくくくくく

とくくくくくくくくくくくくくく

まくくくくくくくくくくくくくく

葉のちくくくくくくくくくくく

のさくくくくくくくくくくくく

あしとくくくくくくくくくくく

て怪しむくくくくくくくくくく

やう後びくきせの麻抄くきくか
系古寺社造くききく甲のよ何十
く切も免くの甲のりれくも何人
本判りきけくたの甲のりれく切
まきすくくしと整くもくもく
くき習のよくとくきりれくき
ちくく国を造くと社造えくく
くき習のよくとくきりれくき

かれど刻くくもありくく
りくくくくくくくくくく
にきくくくくくくくくく
おれりくくくくくくくく
あも高知の明鏡くくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

66107

66107





山形県立図書館



1-0324853-6